

科目名 (英 訳)	S・身体運動文化（硬式テニス） Physical Arts: Lawn Tennis	開講学期 曜日・時限	前期/ 水曜日/ 2時限
対象学年	2年生	単位数	1単位
受講資格	特になし	募集人数	20名程度
担当教員	井田 博史		

●授業の概要（Outline of content and teaching method）

身体運動文化について、硬式テニスの実技を通して学習します。硬式テニスは、競技スポーツとして世界的にプレーされ、またアマチュアスポーツとしても広く普及しています。運動スキルの向上に取り組むことにより、文化としての意義について理解を深めます。硬式テニスの経歴は問いません。

●授業の目的（Primary goal）

硬式テニスについて身体運動文化としての意義と役割について理解することを目的とします。実技においては、運動スキルの向上におけるアプローチ法の工夫や知識の伝達などを通して、身体運動文化に対する認識を深めます。講義では、教材学習のみならずグループ議論を通して知識を広げます。

●到達目標（Objectives）

1. 硬式テニスの身体運動文化としての意義を見いだす。
2. スキル向上を目指す中で、学習効果に対する評価基準を見いだす。
3. ゲーム運営を実施する中で、役割を認識し実践する。

●授業計画（Schedule）

回	内容	概要	学習テーマ
1	ガイダンス	本授業の進め方	授業内容と形式の理解
2	実技	ラケット、ボール、コートの使用	ルールと道具の理解
3	実技	基礎的ストローク練習と簡易ゲーム	基礎技術の習得
4	実技	各種ストローク練習	基礎技術の習得
5	実技	各種ストローク練習	基礎技術の習得
6	講義	ビデオ、テキストを用いた学習	基礎理論の理解
7	実技	応用的ストロークの発見とスキルの伝達	応用技術の習得
8	実技	応用的ストロークの練習	応用技術の習得
9	実技	ラリーの工夫	応用技術の習得
10	実技	ゲームの工夫	応用技術の習得
11	講義	ゲーム運営の理解	競技活動の理解
12	実技	シングルスゲームとダブルスゲーム	競技活動の実践
13	実技	個人トーナメント戦	競技活動の実践
14	実技	団体リーグ戦	競技活動の実践
15	実技	団体リーグ戦	競技活動の実践

●成績評価の方法（Grading scheme）

1. 発表とレポート
講義時に課される発表とレポートについて総合的に評価します。
2. 出席と取り組み
出席と実技の取り組みについて総合的に評価します。実技においては、自他のスキル向上に対するアイデアや工夫において、提示→実践→評価→フィードバックの実施プロセスを重要視します。

●教科書および参考書（Textbooks and materials）

日本テニス協会編：テニス指導教本。大修館書店、1998。